

樫谷議員 みなさんおはようございます。通告していました2点について質問します。まず、最初に庁舎移転の方針についてお伺いします。現在の役場庁舎は、耐震性もなくコンクリートはひび割れ状態である。南海トラフ巨大地震が発生した場合、倒壊の危険性がある。南海トラフ地震の発生確率が70%から80%に引き上げられた現在、早急に移転改築する必要があることから、これまで役場庁舎建設については早急に取り組むべきと議員各位がこれまで幾度も質問してきました。また、庁舎建設の動きとしては、これまで平成28年11月22日に牟岐町役場庁舎移転・建設等検討委員会設置され、その後、平成29年7月20日からは、牟岐町役場庁舎移転・建設等検討委員会が発足し、会議を重ねてきました。その結果、平成29年10月26日に牟岐町役場庁舎移転・建設等検討委員会で庁舎移転に係る報告書がまとまり、同年11月9日に委員長から前町長に提出されましたが、その後は進んでいません。報告書の内容は、候補地選定の基本的な考えとして、報告書による基本方針である。「津波浸水区域外が望ましい」、「町の中心部から遠くない場所が望ましい」「移転先については4000㎡程度の敷地が望ましい」といった基本的な考え方を移転先の選考基準とし、5か所程度の候補地を選定し、その中から、第1候補地として山田地区、第2候補地として大谷地区とする報告内容でした。今後、検討委員会の答申を尊重しそれに沿って進めていく考えであるか。庁舎移転の方針をお伺いします。次に2点目のごみ焼却施設の建て替えについて質問します。牟岐町内にある海部郡衛生処理事務組合のごみ処理施設は、40年以上前に建てられた施設で、既に耐用年数を大きく超え老朽化は進んでいるが、建て替えに関する協議は一向に進んでいません。今年の3月議会の一般質問での前町長の答弁では、ごみ焼却施設の耐用年数は、一般的に20年から30年。ごみ焼却施設設計施工大手の会社が大部分の施設を管理しているが、通常は30年で改築されており、40年を超えるものは管理したことがないと言っている。トラブルで停止することも考えられるが、管理会社によると7年間は頑張ってくれると言っている。」とのことでした。ごみ処理施設建て替えについては、長年の懸案事項であるが、一向に議論が進展していない。今まで何年間も一向に進展しなかったこの課題が一気に解決することは、困難ではあるが、避けては通れない課題でもある。ごみ焼却施設が故障するまでには、次の施設を建設しておかなければならない。今後、どのように取り組みを進めていく考えか。以上、2点について答弁をお願いします。

一山議長 枅富町長。

(枅富町長 登壇)

枅富町長 榎谷議員のご質問にお答えします。「庁舎移転の方針は」の質問から答弁させていただきます。牟岐町役場庁舎移転・建設等検討委員会は、町内の関係機関・団体等の代表者、学識経験者、町議会議員、副町長、町職員などの委員で構成され、その中で協議を重ね導かれた報告書であり、大変重い答申と思っている。候補地選定にあたっては、この報告書を基本に進めていきたいと考えています。庁舎建設に関しては、用地の選定から工事の完成までに4、5年は必要と思われる。まずは、移転先の確定を図っていきたいと考えています。次に「ごみ焼却施設の建て替え」についてです。牟岐町内にある海部郡衛生処理事務組合のごみ焼却施設は既に40年以上経過しており、建て替えが急務であることは十分認識しています。しかしながら、これまで海部郡でも十分な議論ができないまま来ています。牟岐町だけで解決できる問題ではなく簡単には解決できない事案であると思っています。当然ごみ焼却施設が故障して使用できなくなる前には解決しなければならないと考えていますので、どこで建設するか今後協議してみないとわからないことではありますが、私の4年間の任期中に方向性を出せるようにしていきたいと考えています。まずは3町長で話し合い、海部郡衛生処理事務組合の全員協議会を開催するなどして協議を進めていきたいと考えています。以上です。よろしく申し上げます。

一山議長 榎谷議員。

榎谷議員 今答弁をいただきました。庁舎移転の方針については、検討委員会の答申に沿って進めていくとのことでしたので、粛々と進めていただきたい。ごみ焼却施設の建て替えについては、3町長または、組合議会で協議などして早期に目途を立てていただきたい。いずれも、枅富新町長のこれからの手腕に期待し、質問を終わります。